



発行所 長野日報社

諏訪市高島3 千392-8611  
電話0266(52)2000(代表)

©長野日報社2008

# 伊那に終の住みか

## 上島やすらぎ 霊園にお墓 身寄りない「家族」納骨

### 東京・山谷の在宅ホスピス

東京・山谷の在宅ホスピス「きぼうのいえ」で最期を迎え、身寄りもなく引き取り手のない遺骨を納めるお墓が、伊那市西春近の上島やすらぎ霊園に完成し、十七日、施設を運営するNPO関係者らが参列して納骨式が営まれた。納められた遺骨は三十一体。NPOの山本雅基理事長(四七)は「彼らに終の終の住みかを提供でき、ほっとしている」と安堵の表情で話した。(新保修一)



完成したお墓に納骨する関係者

二〇〇二年十月に開設されたきぼうのいえでは、これまで八十二人が亡くなった。このうち約半数の遺骨は親族らに引き取られたが、全く身

寄りがなかったり、さまざまなる事情で親族に引き取りを拒まれるなどで、これまで「きぼうのいえ」にある「聖家族礼拝堂」に安置してあった。

山本理事長らは遺骨を埋葬する場所を探していたが、伊那市御園出身の妻美恵さん(五〇)のいとこにあたる唐木屋石材工芸社長、唐木一平さんの

協力で同社が管理する上島やすらぎ霊園にお墓を造ることを決めた。美恵さんは、「天竜川のほとり、遠くに南アルプスを望むこの場所には、彼らの心のふるさとと風景になる」と話す。

完成したお墓は二区画分を使った幅四段、奥行き二・七段。白御影石で中央と左右に納骨室を造り、五彩色の玉砂利を敷き詰めた。墓石にはきぼうのいえ The House of Hope(ザ・ハウス・オブ・ホープ)と刻まれた。

納骨式には山本さん夫妻、「きぼうのいえ」でチャプレン(専属牧師)を務める堀之内豊さん、以前にスタッフとして働き、現在は故郷の福井県敦賀市の浄土宗福昌寺で副住職を務める山田義浩さん(三三)らが参列した。

納骨では、名前の刻まれた三十一個の骨壺を一つひとつ納めた。美恵さんらは刻まれた名前を見ては「家族」として過ごした最期の日々を思い

出して時折涙ぐんだ。キリスト教式に賛美歌と聖書の言葉で埋葬の儀式を行い、続いて山田さんの読経の中で参列者が花と線香をたむけた。堀之内牧師は「魂の帰るべき所」と話した。

きぼうのいえ NPO山谷・すみだリバーサイド支援機構(山本雅基理事長)が運営する「在宅ホスピスケア対応型集合住宅」。「身寄りのない人が家族のように暮らすことで、一度は失った希望や安らぎを再び見つける場所」と二〇〇二年十月、東京・山谷(台東区清川)のドヤ(簡易宿泊所)街に開設された。末期がんなど重い病気で中長期的な療養を要する人たちにターミナルケアを提供している。当初の二十一室から現在は三十六室に増設され、三十六人がケアを受けている。